

# 週 報

1994年7月31日 聖霊降臨節第11主日

巻15 18号

1994年度教会主題

「十字架のキリストを証する」

聖 句 あなたがたは、代価を払って買い取られたのです  
だから、自分の体で神の栄光を現しなさい。

コリントの信徒への手紙一 6章20

- 目 標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
  2. 一人一人が伝道と奉仕を。

日本キリスト教団 横浜港南台教会

〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電 話 045-833-5323  
ファックス 045-833-6616  
振 替 00290-4-13994

牧 師 秋 吉 隆 雄

訪問した時、私はまず「お疲れになったら、おっしゃってください。すぐ失礼しますから」と言います。体力がない時、長居されると負担がかかります。病床で患者と関係のない自分の苦勞話や家族の話などを長々とされたらたまりません。病床でのお見舞いは寡黙に限ります。病気の苦しみを引き受けることはできませんが、とにかく話を良く聞くように心掛けることです。患者は苦しみに耐えかねて「いっそ死にたい」と言われることはしばしばです。その時「そんなことを言っははいけません」と頭ごなしに否定すると対話が成り立ちません。そして安易な「元気づけ」も苦しみを増し兼ねません。患者の今の苦しみをそのまま受容することです。厳しい病状に言葉を失い無力感に立ちすくむ時ほど辛いことはありません。しかし、私たちはその全てを委ねる方を知らされていることは大きな慰めです。私は短く祈って「又来ます」と握手して帰ります。お見舞いは分かち合い、慰めと励ましを共にすることです。

## 一牧師室から一

現在、私たちの教会員で入院加療されている方が数名おられます。暑い時ご本人も看病するご家族も大変だろうと心が痛みます。ひたすら回復を祈っています。今日は、一般的な患者へのお見舞いについて記します。

まず、患者宅への電話は心して控えた方が良くと思います。心配するから電話するわけですが、十人からくれば、十回同じ病状報告をしなければなりません。これは大きな負担です。返事を求めない手紙が嬉しいお見舞いです。病床を訪ねる時は、必ずご家族の了解を得てからにしてください。

T.F姉は「時間があつたら、又来てくださいね」と何時でも訪問を受け入れてくれました。しかし皆がそうではありません。人に会いたくないと思う時もあります。